



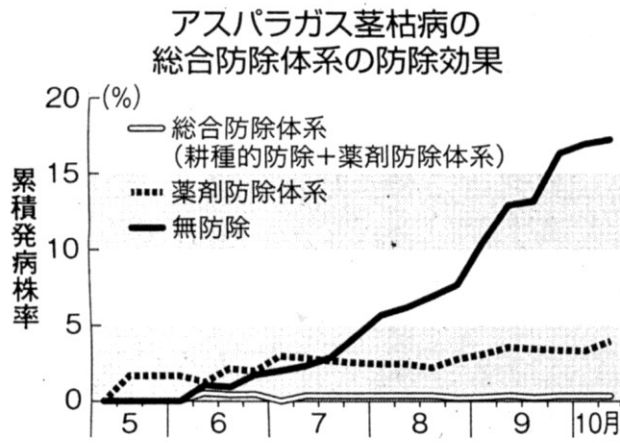
長崎県の主要農産物の一つであるアスパラガスに発生する茎枯病は、親茎の地際部に紡錘（ぼうすい）形の病斑を作る病気で、症状が進むと茎が枯死し、収量が低下します。

そこで、冬季に、発病した茎や土壌表面にいる病原菌を取り除く処理と、生育中に農薬を定期的に散布する体系を組み合わせた総合防除体系の本病に対する防除効果を検討しました。

防除体系は①前作の栽培終了

アスパラ茎枯病対策

地表面焼却や殺菌剤 総合防除体系で抑制



後の全刈り後に、病気になるた（旬）に効果の高い殺菌剤を10日間の残りを地表面から3〜5センチの間隔で4回散布後、9月下旬まで約2週間間隔で作用性の異なる殺菌剤を散布します。

②親茎が本病にかかりやすい立茎時期（4月上旬〜5月上旬）この体系で栽培期間中の茎枯病の発生を低く抑えることができました。Ⅱ図参照。

また、この体系は葉に斑点を生じる褐斑病に対しても効果的でした。

これらの内容は、「アスパラガス茎枯病防除マニュアル」として長崎県農林技術開発センターホームページに掲載していますので参照してください。

（病害虫研究室専門 中村吉秀）